

「美味しい」と喜ぶ言葉とともに、 愛されて百余年 地元鶴見の下町に息づく魚屋

エフ・エフ永井魚春

エフ・エフ永井魚春
(横浜市鶴見区下野
谷町、永井良和社長、
045・511・1575)

は、大正9年創業。たくさんさんの織工が行き交う商店の軒先に、子どもたちの笑い声が響き、温かい御飯の匂いが夕暮れ時を告げる…そんなどこにでもあった下町の中の魚屋として誕生した。平成7年に法人化、現社長で三代目となる。



魚、お刺身といった形でお客様に提供している。「今日はこれ食べなきゃダメだよ。美味いんだから、騙されたと思ってさ」といった店頭でのやり取りにも、下町ならではの活気があふれている。

現在、小売店舗の他に、各地域行事や慶弔料理への仕出し、お食い初め用の焼き鯛、海鮮料理店の運営など、幅広く事業を営んでいる。「商売は時代によって変わる。ただ切った魚を並べても、魚の良さは伝わらない。地域に必要とされるため、お客さんに喜んで魚を食べてもらえるように提供していく」と、社長は力強く語る。



グローブのように大きな社長の掌で捌かれた魚たちが、今日も店頭に並んでいる



系列の海鮮料理店でも、魚屋ならではの新鮮な魚介メニューが人気